

高山村子ども教室の取り組み

本所 智子

高山村では今年度、子どもの安全な居場所づくりの一つとして、「高山村子ども教室」を始めました。子ども教室には私を含め2名のコーディネーターがいますが、これまでに高山村が実施した郷土かるたの作成に関わったことや、読みきかせの会であるならの木読書会に所属していることから、子ども教室のコーディネーターとして関わらせてもらうことになりました。高山村子ども教室はまだ途中の段階ですが、これまで行ってきた取り組みについて紹介したいと思います。

子ども教室には、土曜、日曜や長期休暇等に行う休日活動と、小学校の放課後に行う、放課後活動の二つがあります。高山村ではこれまでも、「地域と学校が連携した奉仕活動・体験活動推進事業」の中で、休日を利用して村内の方々の協力を頂き、親子料理教室、ふれあいスポーツ教室、水 Rocket 作成などを行ってきました。今年度はこれまでのこうした取り組みに、新たに割り箸鉄砲、突き鉄砲作りなどを加え、体験の種類や機会を増やし、「なんでも探検隊」として子ども教室の休日活動としました。休日活動の目的は、子どもたちが親や地域の人たちとふれあい、いろいろな体験をしながら、親子の絆や地域の人たちとの絆を深めていくことです。交流を通して地域の人たちに子どもたちを知ってもらうことができますし、親にとっても地域の人を知るいい機会になると思います。

この休日活動は教育委員会の事務局が中心となり、コーディネーターが協力して実施していますが、放課後活動はコーディネーターが中心となって計画をし、準備を進めています。今年度は毎月第2、第4火曜日に、授業終了後から下校令まで、小学校の生活科室等を借りて実施しています。

今年度は初めての試みとなりますので、自分たちのできることから取り組むことにしました。年間計画を立てるに当たっては、「読みきかせ」「かるた」「身近な物の利用」の3つを柱にしました。まず、子ども教室の目的の一つである子どもの読書推進のため、読みきかせを随時取り入れることにしました。次に、昨年度完成した高山かるたを活用することにしました。このかるたは、作成時の高山小学校6年生が中心となって絵を描いた物で、子どもたちにとっては馴染みやすいと思います。自分たちの郷土の歴史や文化を楽しみながら知る、ちょうど良いきっかけにもなるのではないのでしょうか。ただ1月には上毛かるた会もありますので、上毛かるたも取り入れていくことにしました。そして何より、私たちコーディネーター自身が手探りの状態ですから、毎月1回かるたを行うことで、活動に余裕を持たせることができました。また、今はいろいろな物が身の回りに溢れていますから、それらにもう一度目を向けて、遊びに取り入れられる物を探してみることにしました。そのことが、子どもたちが生活の中で、自分で遊びを見つけるきっかけにもなればと考えています。

実際の活動に当たっては、時間配分に頭を悩ませています。高山村は小学校が一つなので、遠距離の子はスクールバスで通学しています。スクールバスで帰る子もいますから、低学年の下校令が一つの区切りとなり、高学年の授業終了がもう一つの区切りとなります。早く帰る子でも一通りできるように、途中から参加する高学年の子には、一人でもできるように、用意しておく材料を変えたり、作り方を書いた紙を貼っておいたり、できるだけ

みんなが楽しめるようにしています。実際にやってみると、思ったとおりにいかないことも多いですが、子どもたちにとってどうするのが良かったのか考えて、次に活かすよう努めています。

これまでの活動内容は、以下のとおりです。

回	実施日	活動内容
1	6月14日	読みきかせ 紙ひこうき作成と遊び
2	6月28日	高山かるた
3	7月12日	高山かるた 読みきかせ 紙トンボ遊び
4	9月13日	紙トンボ作成と遊び
5	9月27日	高山かるた 読みきかせ コマ作成と遊び
6	10月11日	ブラックパネルシアター 影絵紙芝居 影絵遊び 読みきかせ
7	10月25日	高山かるた リングリングライダー
8	11月 8日	ブンブンゴマ作成と遊び
9	11月22日	上毛かるた どんぐり遊び 図書の貸し出し
10	12月13日	読みきかせ 上毛かるた 図書の貸し出し 弓矢ごっこ

第1回目は、低学年の下校令までの20分間で紙芝居と本の読みきかせをしました。天気にも恵まれたので、校庭の木の下で行いましたが、多くの子どもたちが集まってくれました。せっかく集まってくれる子どもたちですから、ワクワクする気持ちを味わってもらいたくて、おはなしたまごを用意しました。これは本の題名を書いた紙を入れておいて、子どもたちに選んでもらうものですが、割りたいという子が多く、こちらの方が驚いてしまいました。おはなしたまごは、その後も読みきかせの度に用意していますが、子どもたちの楽しみの一つになっています。誕生月の子に割ってもらうことが多いため、自分の誕生月を心待ちにしている子もいます。

この回は、雑誌などについている不要のはがきを使って、紙ひこうきを作りましたが、男の子も女の子も夢中になって飛ばしていました。最後には校庭で競争をして、一番飛んだ子には手作りの賞状を渡しました。

2回目は高山かるたを行いました。来た順にグループになってもらい、低学年の下校令までに1回、高学年の授業終了時間までに1回行いました。ところが、高学年がグループを作るまでに思った以上に時間がかかったため、低学年が待ちきれず騒ぎ始めてしまいました。かるたでは、たくさん枚数をとれた子を張り出すなどしてみましたが、それだけでは子どもたちの関心を引きつけておくのは難しいと感じました。そこで3回目のかるたの時には、まず組分けの楽しみということでピーナツくじを作りました。これはピーナツの殻の中に番号札を入れておいたものです。初めは不思議そうな顔をしていた子どもたちですが、自分の番になると真剣に選び、なかなか決まらない子もいました。くじは子どもたちの好きな物の一つですから、さっと集まってくれます。それからは、割り箸くじやどんぐりくじなどを作ってかるたの時ののお楽しみにしています。

また、高学年が参加するまでのつなぎとして紙トンボで遊ばせたところ、うまく飛ばすことができたのが、とても嬉しかったようです。今度は自分で作りたいという子がたくさ

んいました。そこで4回目は予定を変更して、牛乳パックを利用した紙トンボの作成、遊びにしました。子どもたちは大喜びで何個も作ったり、違う形に挑戦したりしていました。出き上がったら校庭で飛ばしましたが、どの子どもとも得意そうでした。自分もうまくできるといことが関心を高め、やる気にさせるのではないのでしょうか。

子どもたちの様子から、かるたの合間には昔の遊びを中心に、手軽に作ったり、遊べる物を取り入れることにしました。村内の方からたくさん頂いた厚紙を利用したコマ作り、おもしろ科学教室で行われたリングリングライダー、季節の素材であるどんぐりを利用したコマや動物の作成、篠竹や広告を利用した弓矢ごっこなど、身の回りにある物にちょっと手を加えることで手軽に作ることができますから、子どもたちは夢中で作ったり、遊んだりしています。時には自分たちで工夫した遊び方をしている子どももいて感心させられます。簡単な方が工夫する余地があっておもしろいのかもかもしれません。弓矢ごっこでは、村の弓道部よりのを貸して頂きましたが、子どもたちの興味が高まり、当てることに夢中になっていました。迎えが来ても、なかなか帰ろうとしない子がたくさんいました。

子ども教室を進めていく中で、協力してくれる保護者の方も出てきました。大人が増えることで、子どもたちに目が届きやすくなりますし、余裕を持って活動を進めることができます。6回目は読書の秋ということで、読みきかせを中心にしました。そのため、いつもと同じ読みきかせではなく、ブラックパネルシアターを取り入れることにしました。高山幼稚園とならの木読書会から材料を分けてもらったり、道具を貸して頂いたお陰で、行うことができました。また暗さを利用して影絵紙芝居、影絵遊びを取り入れ、子どもたちにも参加してもらいましたが、どの子ども喜んで参加してくれました。最後はお話ごとに3つに別れ、好きな話を聞きに行ってもらいましたが、飽きもせず一生懸命に聴いてくれました。この回は協力者の方の存在が大きかったと思います。子ども教室では毎回、チラシを作って、小学校の各教室や廊下に貼ってもらったり、保護者の方に配ってもらっています。この回は、何をやるか具体的に書きませんでした。暗いところで何かをするというので、子ども達の興味が高まったようでした。思った以上に子どもたちが集まり、チラシの効果を改めて感じました。

保護者の中には、興味を持って下さっている方も多いようです。自分の子どもを迎えに来るついでに様子を見てもらったり、一緒に遊んでもらったりと気楽な感じでお手伝いをして頂けたらと思っています。多くの方に興味を持ってもらい、子どもたちを見守る目が一つでも多く増えることが望ましいのではないのでしょうか。

今までのところ、参加の中心は低学年です。高学年にも興味を持ってもらえるようにしたいと思っていますが、まだ力不足を感じています。8回目に行ったブンブンゴマづくりは高山小学校の校長先生より提案して頂いた物ですが、村内の大工さんがボランティアで丸木を薄く切ってくれたものに、子どもたちが自分でキリで穴を開けて作りました。この時は高学年の子どもいつもより多く参加してくれました。高学年になると、興味を感じることがたくさんあるでしょうから、参加者が少ないのは自分の居場所があるということで、良いことなのかもしれません。それでも学年を越えた輪ができる数少ない場でもありますから、もっと工夫していく必要があるのではないかと考えています。

9回目からは読書推進を更に押し進めるために、子ども教室でも本の貸し出しを始めました。小学校に相談をして、図書室より20冊ほど本を貸してもらい、学校とは別枠で貸

し出しています。壁面に飾り付けをしたり、興味を引くように努めています。借りた子の名前を壁面の飾りの中に書き込めるようにしたところ、面白がって借りていく子もいます。まずは手元に本があることが大事ですから、どんどん借りて行って欲しいと思っています。

また読みきかせの際にも、いつもと違う人に読んでもらうことで、子どもたちの関心が高まるような気がします。昨年最後の子ども教室では、教育長さんに読んで頂きましたが、教育長さんの回りに集まって、息づかいの感じられるところで聴かせてもらいました。こうした小さなふれあいも大切ではないかと思しますので、これからも時々、子どもたちのために読んでくれる人をお願いしてみたいと思っています。

今、改めて高山村子ども教室が、村内の多くの方の力を借りてやっていることを感じています。特に、小学校を使わせてもらっていることの意義は、大きいのではないかと考えています。子ども教室は小学生全員を対象としていますが、それは小学校を使わせてもらうことで可能になっています。放課後、移動のために時間をかけなくて済むことで、低学年の下校令で帰る子も参加できます。また、交通面の心配だけでなく、子どもに降りかかる危険も増えていますが、小学校で行うことで保護者の方も安心して参加させることができると思います。ただ、1回目では自由参加の形を取りましたが、学校側より、低学年の帰宅が心配なため、下校令には帰して欲しいとの意見が出されました。そこで学校側と相談をして、保護者に申込書を出して頂き、帰宅方法の確認を取ることで、最後まで参加することができるようになりました。申込書は毎回配る子ども教室のお知らせにつけ、参加時間や帰宅方法を確認しています。

その他にも、空き教室や校庭を利用させてもらえるので、遊びに変化をつけることができますし、いざという時には保健室を使わせてもらえるのも心強く思っています。何より、子ども自身が慣れた場所ですから、安心して参加できると思います。

まだ始まったばかりの取り組みで、考えの至らない所もたくさんあると思います。多くの方の意見を頂いて、子どもたちがどうやったら喜んでくれるのか考えながら、進めていきたいと思っています。そしてこの小さな取り組みを、地域の方々の力をお借りして少しずつ広げていきたいと思っています。